

JR東海労なごや

2015年6月1日 No.1039
JR東海労名古屋地方本部
発行者：山田哲也
編集者：教宣部

会社は今こそ社員の悲鳴を聞くべきだ！

熱中症？で運転士、車掌が相次ぎ病院へ搬送 まさに異常事態ではないか

5月25日に発生した乗務員の相次ぐ体調不良は、会社のいびつな社員管理の実体を世間にさらしたといえます。まず会社はここ数年の異常な暑さを乗り切る対策を一切していません。

また、私たち労働組合の声を一切聞こうとせず、現場で働く多くの社員が夏期におけるノーネクタイを希望しているにもかかわらず、耳を傾けることはありませんでした。多くの私鉄は開襟シャツ、ノーネクタイなど酷暑を乗り切るための対策をしているのを見ても、世間の流れとは逆行しているといえます。

なぜ、こんなにかたくなに社員の声を無視しているのでしょうか。一部経営者の異常なまでの社員管理が影響していると噂されていますが、ここまでくると巷ではJR東海はまるで軍隊とまで言われています。経営陣はこういった声も聞こえないのでしょうか。

乗務員の体調不良は 会社の労務管理の結果だ

本人の体調は本人にしかわからないにもかかわらず、会社の指示をうけて水分を補給なんてばかげていませんか。ましてや水分の補給は症状が出始めてからは手遅れといわれています。暑ければ上着をぬぐ、のどが渴けば水を飲む、きわめて常識的ではないでしょうか。

さらに暑くなる夏本番迎え、 会社は第2第3の犠牲者を だすな！

JR東海労名古屋地本第21号
2015年6月1日

東海旅客鉄道株式会社
東海鉄道事業本部
本部長 勝治 秀行 殿

JR東海労働組合名古屋地方本部
執行委員長 山田 哲也



運転士が熱中症とみられる体調不良により発生した
東海道線幸田～相見間での列車支障について

5月25日13時15分頃、2328Fに乗務する運転士が熱中症とみられる体調不良のため、東海道線幸田～相見間で約1時間にわたり列車が運転できないという事態が発生した。さらには同列車に乗務していた車掌も熱中症とみられる症状で病院に搬送されるという事態が発生している。なお、2328F列車は12時40頃に安城駅構内の踏切で買い物カートと接触し、乗務員は安全確認などの対応を行っている。

同じ列車に乗務する運転士と車掌が、同じ症状で病院に搬送されるということは、何らかの明確な原因があると考えられる。会社は社員の健康管理に対して問題がなかったか、会社は異常な状況の中で乗務員に極度の負担となつような作業指示を行わなかったかなど多くの問題がある。今後の対応についても同時に申し入れるので早急に業務委員会を開催すること。

1. 今回の幸田～相見間での事態の内容（影響人員、列車遅れ、影響人員など）を詳しく説明すること。
2. 幸田～相見間で発生した事象を時系列で説明すること。
3. 安城駅構内での買い物カートとの接触事故の内容及び指令の指示、乗務員が行った対応について説明すること。
4. 運転士並びに車掌の体調不良の病名は何だったのか明らかにすること。
5. 今回の列車支障、つまり乗務員が体調不良になつたに原因について説明すること。
6. 今後の対策についてどのように考え、何を行うのか明らかにすること。